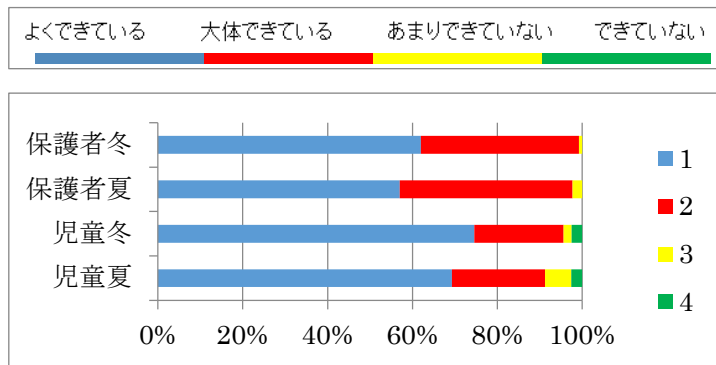


納所だより

学校評価 報告号 2

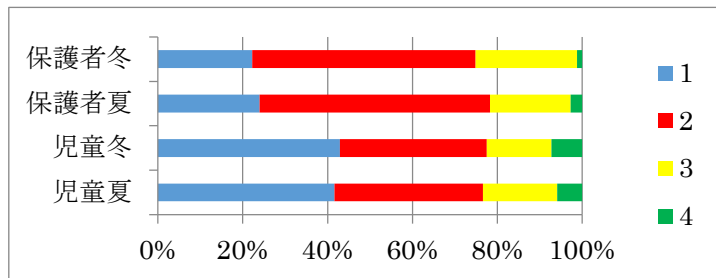
平成 28 年 1 月 15 日
京都市立納所小学校
校長 天野 聖子

◎ 学校で楽しく過ごしている



保護者（以後保）、児童（以後児）とも夏よりも「できている」の割合が増えています。保は90%から95%に増えているのは喜ばしいことでもあります。

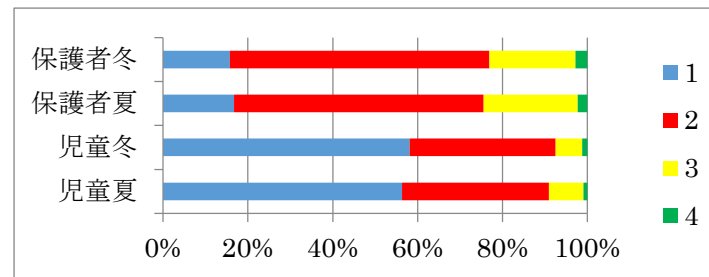
◎ 自分から進んで「あいさつ」をしている



保・児ともあまり変化がありません。保は「あいさつ」が減っているように感じているという結果が出ています。もっと「あいさつ運動」などにしっかり取り組んでいきたいと思います。

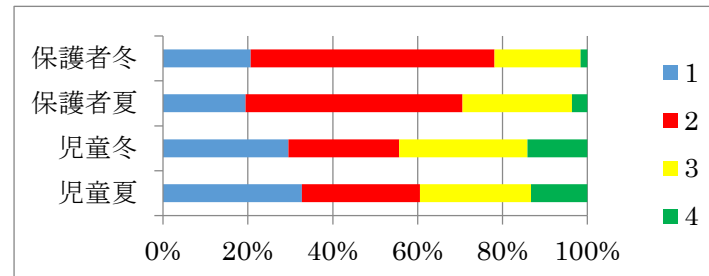
学校評価へのご協力ありがとうございました。今回は夏休み前の評価と並べて比較したものを載せてあります。子どもたちの意識・実態、そして、保護者のお考えや思い等を考察し、子どもたちのよりよい成長へとつなげていきたいと考えます。皆様のお力添えを今後ともよろしくお願いいたします。

◎ 話をしっかり聞く



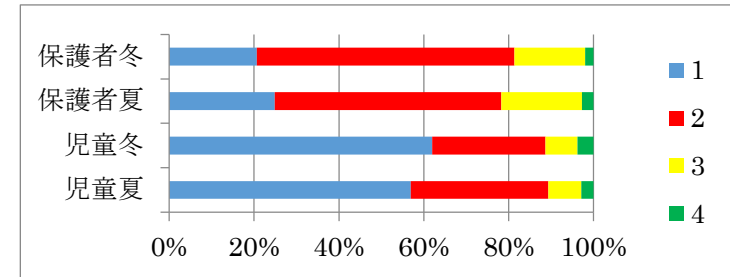
少しずつではあるが、よい方へ向かっています。しかし、保から見て、「出来ていない」も少しですが増えているのは気になるところです。

◎ 自分の考えをしっかりと話す



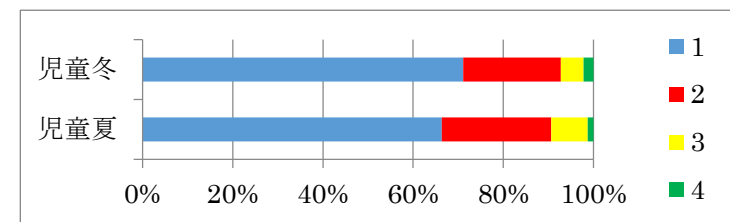
保と児の感じ方がはっきりと分かれている項目です。保から見ると、ほぼ80%が「出来ている」と感じ、増えているが、児の方は55%とほぼ半数しか「出来ている」と答えていません。家ではよく話すが、学校では話せないということでしょうか。もっと話しやすい雰囲気をクラスでつくっていかねばならないと思います。

◎ 授業を理解している



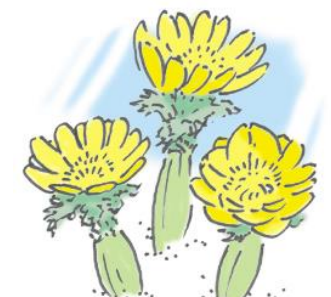
ほぼ横ばいの結果が出ました。児は約90%が理解していると答えているのに対して、保は80%に下がります。これは児が自分に甘い評価をしているのに対して、保は実態をきちんと理解しておられる、という意識の違いでしょう。

◎ 当番活動がんばっている

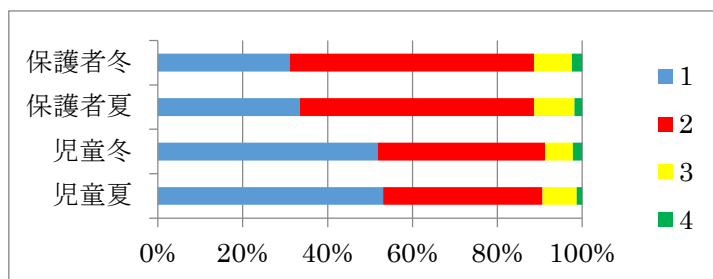


夏よりも今の方が少し良くなっている。全体に当番活動をちゃんとやるようになってきたということですが、「出来ていない」児童も少しだが増えているのは、「出来ていない」児童に感化された児童が出てきたということでしょうか。

気をつけて見て、指導していきたいと思います。

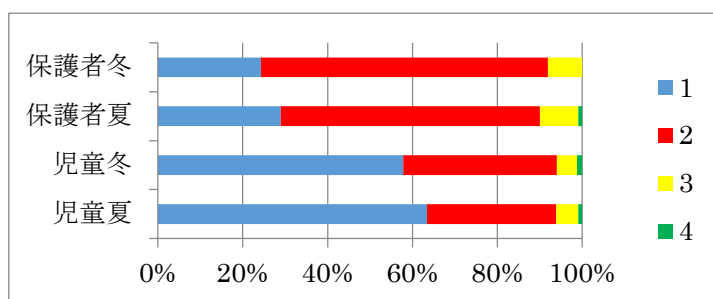


◎ 約束・ルールを守っている



ほぼ横ばい状態ですが、保・児とも約90%が守れているということなので、安心はできますが、残りの10%の児童に対する指導を全校で取り組んでいかなければなりません。

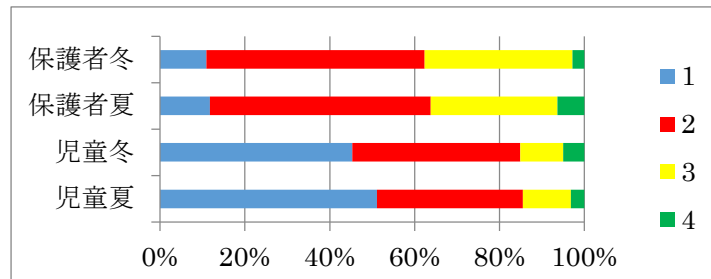
◎ 友達を大切にし、やさしくしている



微増ではありますが、「できている」がほぼ95%と良い状態です。道徳や特別活動などあらゆる教育活動において、人にやさしく接することのできる児童を育てていきたいと思えます。

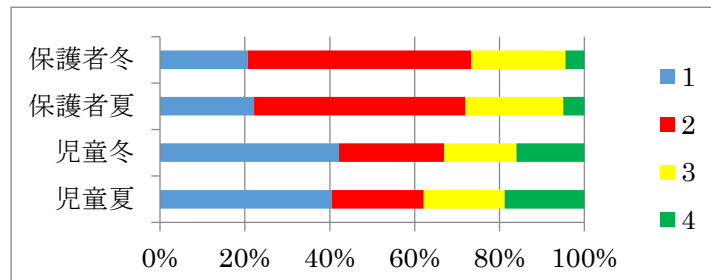


◎ ことばづかいに気をつけている



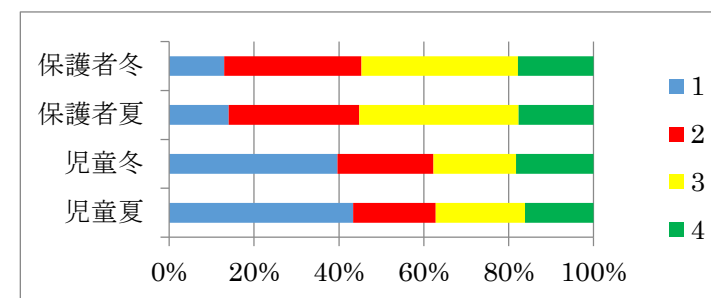
保と児の意識の違いが大きい項目の一つです。児は80%以上が気をつけていると思っていますが、大人から見れば「できていない」というのが実情です。テレビ等の影響で、児童が普段当たり前のように使っている言葉は、我々からすれば乱れたことばづかいであると感じます。学校においては常に正しいことばづかいを心がけ、指導するよう気をつけていきたいと思えます。

◎ 宿題の他に家庭学習をしている



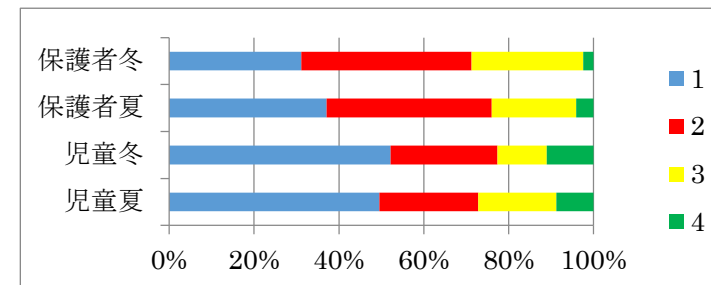
保・児ともに着実に増えています。ただ、児よりも保の方が「できている」と思っている割合が高いのはどうしてでしょうか。児の「できていない（家庭学習をしていない）」が20%近くあるのを減らしていく取り組みを進めていかなければなりません。

◎ 家で読書をしている



夏からほとんど変化していません。家庭読書ができる環境をつくるのが難しくなっているのでしょうか。読書の楽しさをもっともっと実感させる取り組みをし、たくさんの本を読むようになってほしいと思えます。

◎ 学校であったことを家で話す



家で話をする児童が増えてきているのは良い傾向である。保護者もお仕事で帰宅時刻が遅くなり、なかなか児童と話をする時間がとりにくいと思えますが、学校であったことをいろいろ話す・聴くことが、子育てにおいてとても大切なことだと思います。

